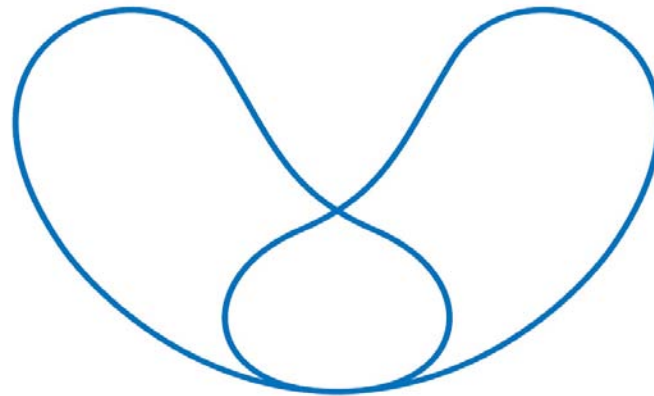


# 公益財団法人 骨髄移植推進財団

## 骨髄バンク事業の取組状況



日本骨髄バンク

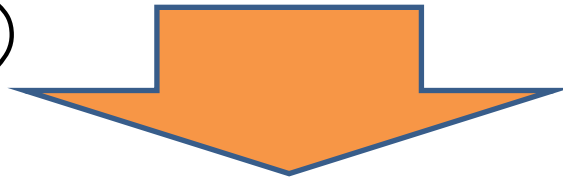
平成25年2月4日 第36回厚生科学審議会造血幹細胞移植委員会

# 骨髄バンク事業の取組み

- I. ドナー登録推進の取組み
- II. コーディネート期間短縮の取組み
- III. 患者負担金軽減の取組み

# I. ドナー登録推進の取組み

■ 1992年      ドナー登録者目標 10万人  
(当財団設立)



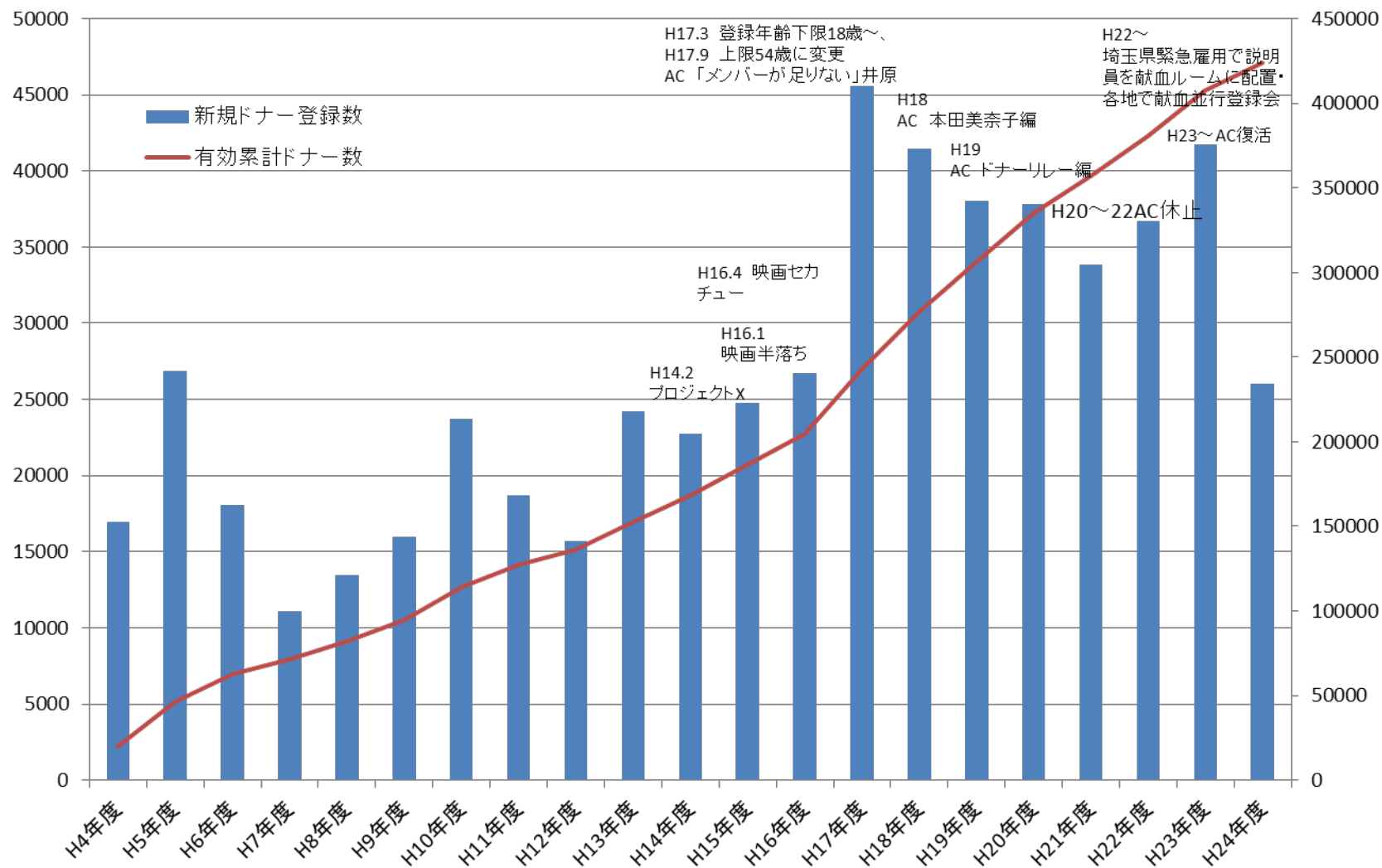
■ 1998年      ドナー登録者目標 30万人  
(10万人到達)



■ 2008年  
(30万人到達)

■ 2012年12月末現在      425,000人

# ドナー登録者数の推移



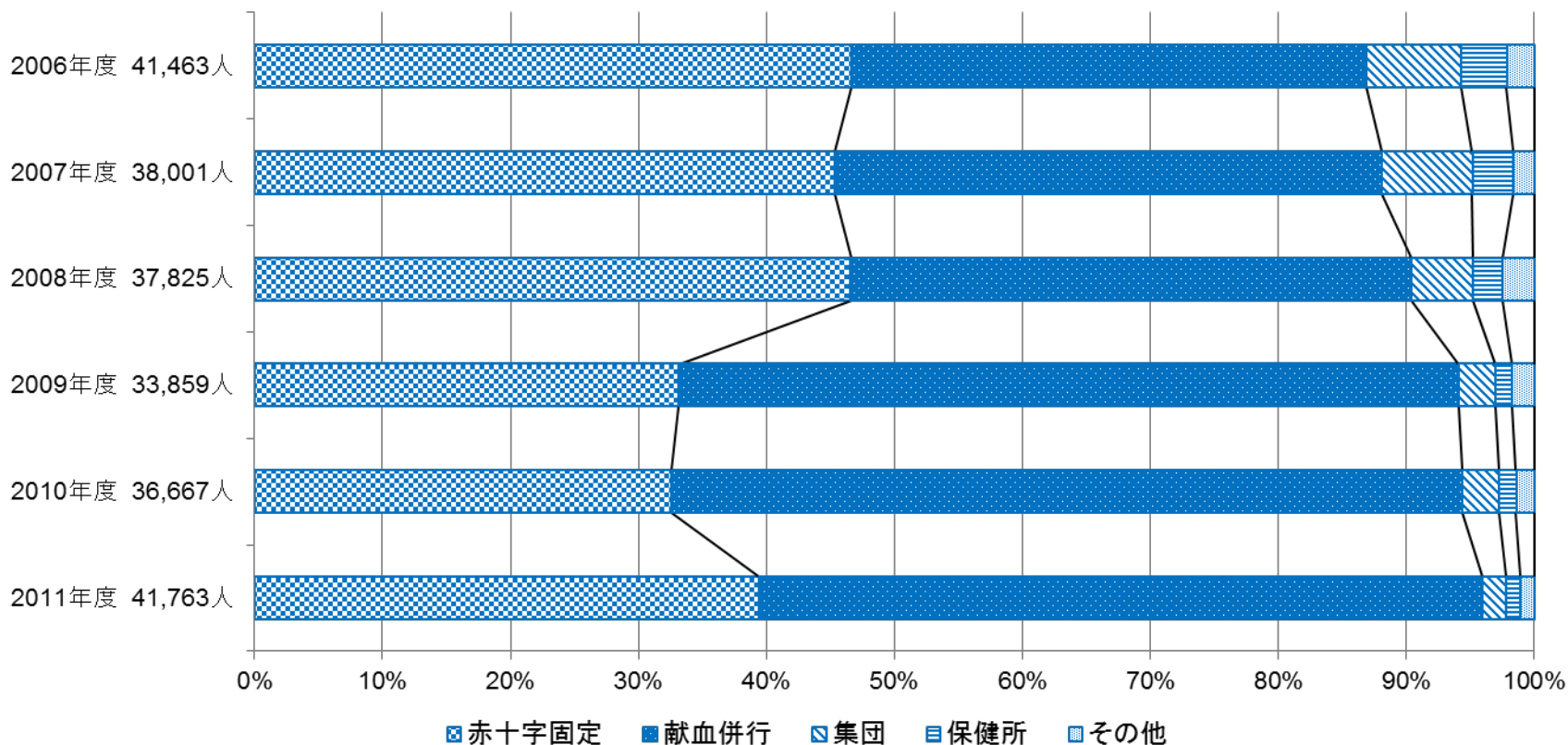
# I. ドナー登録推進の取組み

- 1) 地区普及広報委員・説明員制度  
によるドナー登録会開催体制の強化
- 2) 骨髄バンク普及啓発活動の強化
- 3) 行政への働きかけ

# 1) 地区普及広報委員・説明員制度によるドナー登録会開催体制の強化

- 地区普及広報委員：約100名  
ドナー登録説明員：約1,000名
- 定期的な研修会を実施
- 献血併行型ドナー登録会を増加  
2011年度：年間4,000回以上開催

# 窓口別ドナー登録者数の推移



年度	赤十字固定		献血併行		集団		保健所		その他		TOTAL	
2006年度	19,328	46.6%	16,690	40.3%	3,079	7.4%	1,478	3.6%	888	2.1%	41,463	100.0%
2007年度	17,236	45.4%	16,225	42.7%	2,705	7.1%	1,210	3.2%	625	1.6%	38,001	100.0%
2008年度	17,587	46.5%	16,606	43.9%	1,811	4.8%	899	2.4%	922	2.4%	37,825	100.0%
2009年度	11,218	33.1%	20,628	60.9%	990	2.9%	436	1.3%	587	1.7%	33,859	100.0%
2010年度	11,942	32.6%	22,671	61.8%	1,054	2.9%	494	1.3%	506	1.4%	36,667	100.0%
2011年度	16,458	39.4%	23,614	56.5%	771	1.8%	468	1.1%	452	1.1%	41,763	100.0%

## 2) 骨髄バンク普及啓発活動の強化

- ドナー登録用パンフレット・ポスター・DVD・グラビア等を作成、配布
- ACジャパンの支援キャンペーン
- 全国大会を毎年開催
- 「骨髄バンクニュース」年2回発行
- 「かたりべ」活動(学校等で講演会)⇒若年層へ働きかけ
- 企業・団体へドナー休暇制度導入を働きかけ
- 読売巨人軍・Vリーグ(バレーボール)等スポーツを通じた普及啓発
- 生保・損保のドナー給付金特約の導入・拡大





Vol.30 2007年7月4日



Vol.31 2007年12月5日



Vol.38 2011年7月6日



Vol.37 2010年12月8日



2000年 アンディ・フグさん (自分と同じ病気で苦しんで、いる人を救いたい) 2000年12月



2001年 夏目雅子さん (命、いつまでも輝いて) 2001年12月



2002年 夏目雅子さん (いのち、いつまでも輝いて) 2002年10月



2004年 星野仙一さん (星野監督と谷口さんとの約束) 2004年8月



2005年 井原正巳さん (メンバーが、足りない) 2005年5月



2007年 ドナーリレー (世代から世代へ、命をつなぐドナー登録リレー) 2007年5月



2008年 誰かの未来につながっている骨髄バンク 2008年



2010年 命は地球の財産 2010年



2011年 あなたしか治せない白血病があります 2011年5月

# 3) 行政への働きかけ

## ① 診療報酬点数増額に努力

- 患者負担金軽減のため
- CTC※の設置と医師の負担軽減のため

※Clinical transplant coordinator: 移植施設における移植コーディネーター  
現在、全国で計16施設20人

## ② 国庫補助金確保に努力

- 支払困窮者の免除費用、システム改修費用など  
総額：4億3,212万円 ⇒ 4億5,198万円 ⇒ 4億5,353万円  
(平成22年度) (平成23年度) (平成24年度)

## Ⅱ. コーディネート期間短縮の取組み

### 1) HLA検査へのDNAタイピング導入(主なもの)

- ◆2005年ドナー登録時検査 HLA-A、B、DRB1の  
DNA検査(R-SSO法)開始
- ◆2005年 患者確認検査 HLA-A、B、DRB1をSBT法で検査
- ◆2009年ドナー登録時検査 HLA-CのDNA検査(R-SSO法)追加
- ◆2009年 患者確認検査 HLA-A、B、C、DRB1の4座をSBT法で検査

### 2) コーディネートルールの見直し

- ◆最終同意前に骨髄採取日程を内定[ピンポイント調整](2000年)
- ◆迅速コース導入(2004年)

## Ⅱ.コーディネート期間短縮の取組み

### 3) コーディネート体制強化

- ◆コーディネート支援システム稼働(2001年)  
(コーディネート進捗管理の専用システム)
- ◆コーディネーター研修
- ◆調整医師の確保

### 4) 採取施設や医師に対する働きかけ

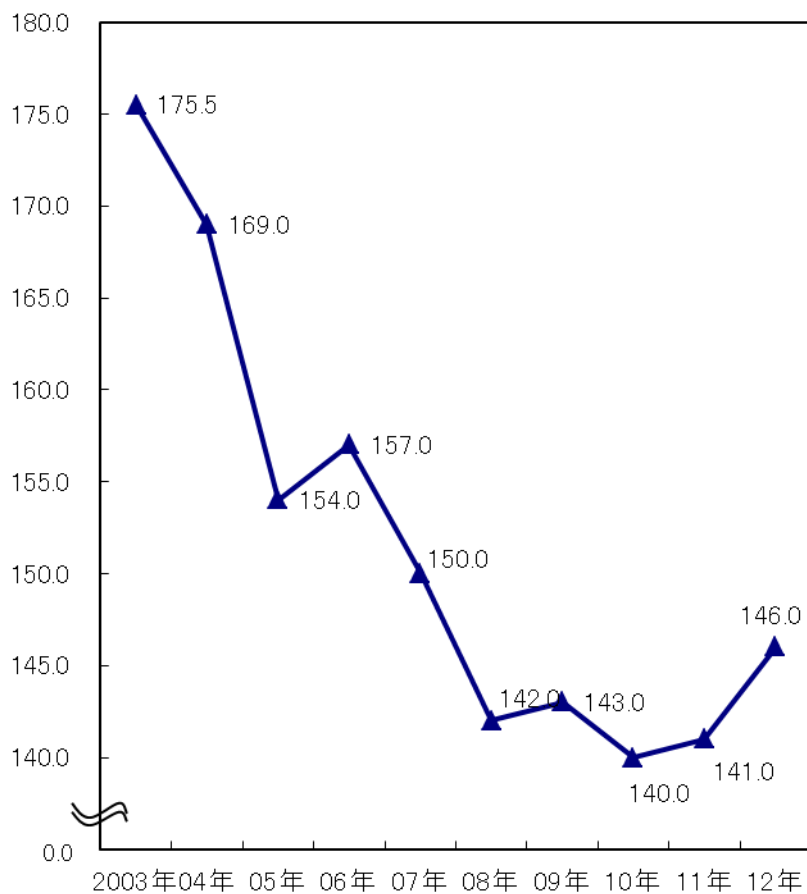
- ◆採取施設に対する協力要請文書を発出(2006年、2010年、2011年)
- ◆採取施設、調整医師へ感謝状贈呈(2010年～)

### 5) 非血縁者間PBSCTの導入

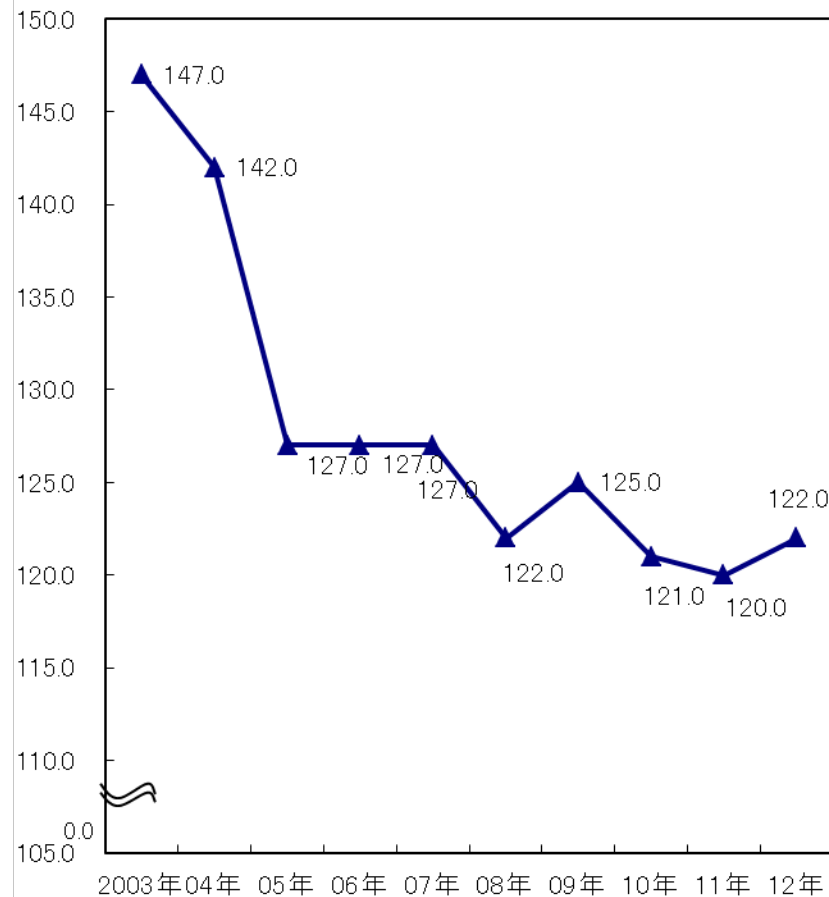
- ◆2010年10月より開始

# コーディネート期間の中央値の推移 (2003年～2012年)

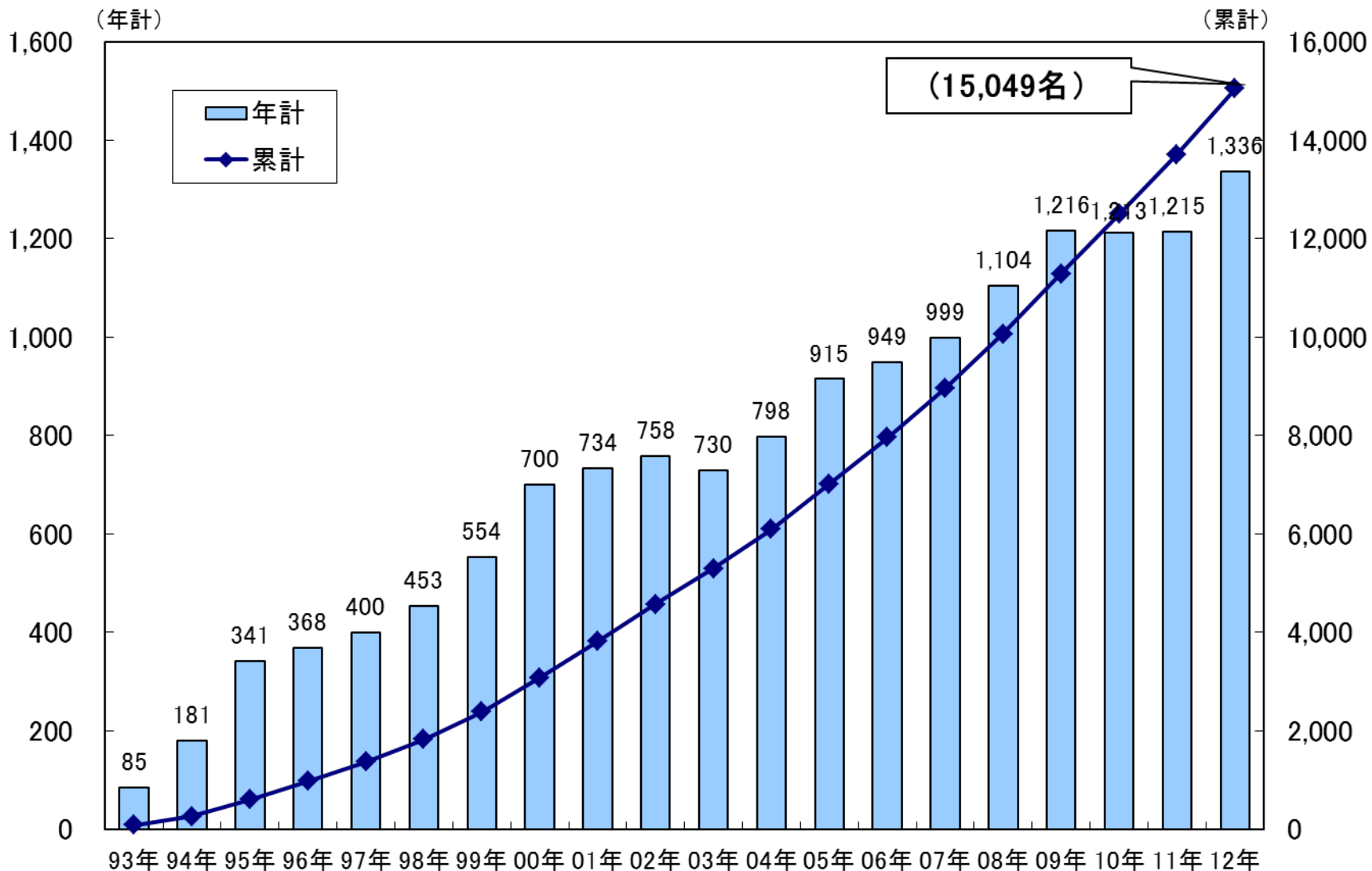
## 患者登録日～移植日



## ドナー指定日～採取日



# 骨髓移植実施状況



# Ⅲ.患者負担金軽減の取組み

## ●患者負担金とは

ドナーの検査費用等コーディネート等に関わる費用。健康保険の性質上、保険ではまかなえない部分の患者の自己負担額

## ●医療保険の適用拡大を求める要望を重ね、患者負担金の軽減に努力

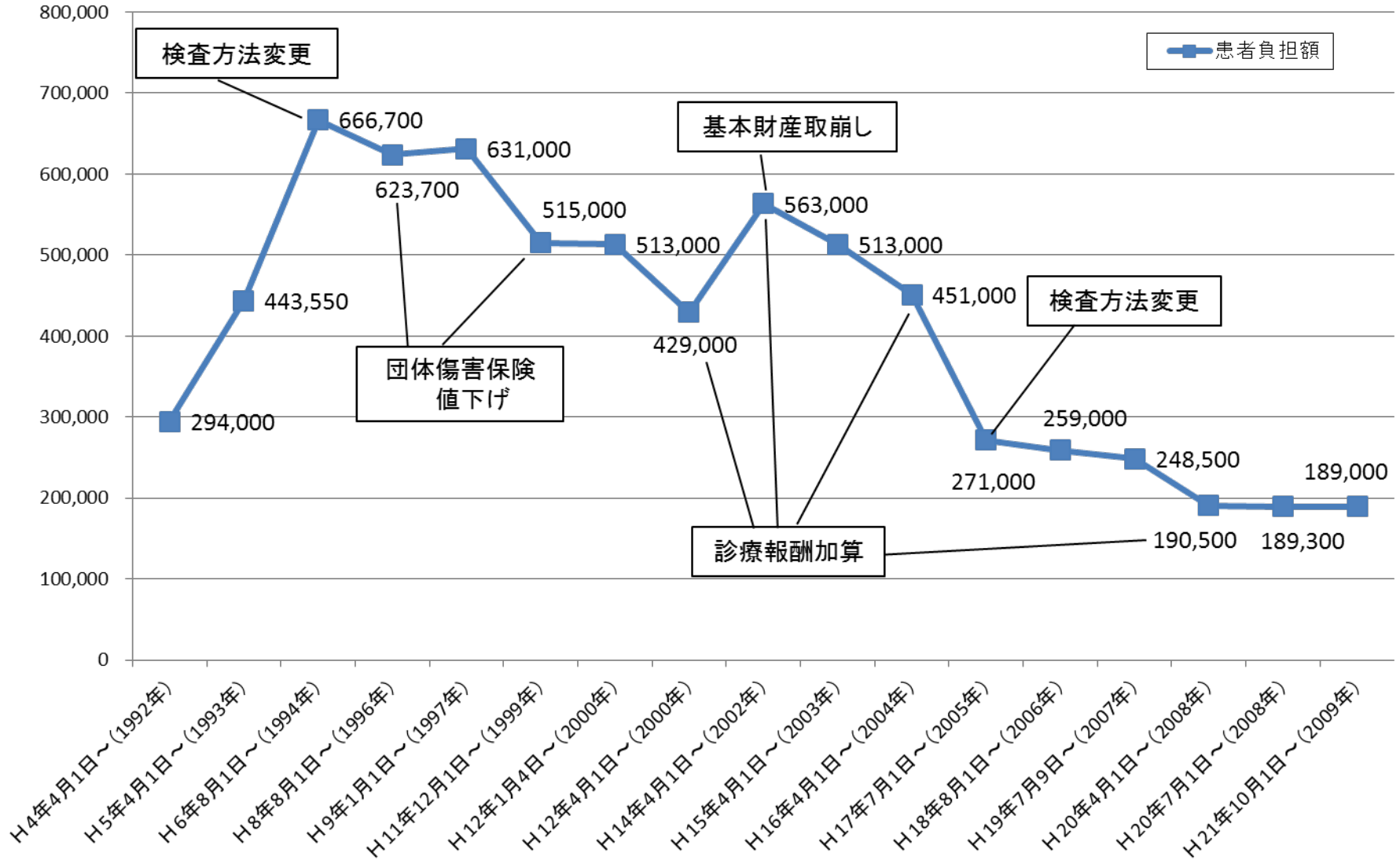
- ◆「患者負担金軽減積立金」設置(2005年度)  
モデルケースで666,700円最大 → 189,000円現在

## ●支払困難世帯への支援

- ◆「患者負担金等支援基金」創設(2002年度)
- ◆経済的に支払困難な世帯の減免実施  
(平成23年度免除実績:8,931万円)
- ◆基金への団体・個人寄付要請活動

# 患者負担金の推移

(ドナー4人の確認検査を行い移植に至ったモデルケース)





# 最も大きな課題

1. HLA適合率が95%にも関わらず、移植率が6割以下
2. 骨髄移植件数の飛躍的な増加に伴い、採取施設のスムーズな受け入れが困難（血液内科医の不足、麻酔科医の確保困難、手術室の確保困難、病床の不足）